

ISO/IEC/JIS Plastics事務局便り2018年2月

ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに57の規格が発行され、10の規格開発プロジェクトが進行中である。SC2傘下で活動中の作業部会(WG)を第1表に示す。なお、WG4は開発案件がないため現在休止中であり、WG6及びWG8は、SC9国内委員会が担当しているため、本稿では取り上げない。

第1表 TC61/SC2のWG

WG	コンビナー	名称
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	耐衝撃性
5	イギリス	温度依存性
6	イタリア	試験片寸法
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	アメリカ	データの標記方法

*幹事国：中国，議長：韓国（2017年11月末）

本年9月18～22日に、韓国のDeajeongにおいて、第66回ISO/TC61国際会議が開催され、TC61/SC2関係では各WG会議、及びSC2全体会議が開催された。SC2全体会議には、22か国のPメンバー中、9か国から合計24名が参加し、各WG報告及び討議の後、計4つの事項が議決され、TC61全体会議に報告された。本稿では、国際会議での議論内容を中心にTC61/SC2の最近の動向につき、WG別に概要を報告する。

1. 静的力学特性 (WG 1)

ISO/DIS 178 (曲げ特性の求め方) は、投票の結果承認され、コメント内容を討議し、12月末までにFDIS文書を作成する。

ISO/FDIS 899-1 (クリープ特性の求め方ー引張クリープ) は、昨年の定期見直し結果及びコメントをもとに修正文書が作成された。なお、本規格は、本会議後の本年9月末に発行済である。

ISO 527-1 (引張特性の求め方 第1部) は、定期見直し及びコメント内容討議の結果、改訂を取り進める。

ISO 527-2 (引張特性の求め方 第2部) 及びISO 604 (圧縮特性の求め方) は定期見直しの結果、修正なしで確認した。

PWI 22183 (油圧式高速引張) の規格開発に関し、提案国 (日本) のPLからの進捗報告及び討議を実施した。今後、各国にコメント提出を求め、内容の討議を継続する。

2. 硬度及び表面特性 (WG 2)

ISO/DTR 19278 (計装化押込硬さの試験方法) は、技術資料 (TR) の基準に合致せず、協議の結果、TRではなく技術仕様書 (TS) として取進める。

ISO/CD 20329 (往復平面磨耗試験) は、投票で提出されたコメント内容討議の結果、DIS段階

ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

に進める。

ISO 9352 (摩耗抵抗の求め方) 及びISO 6601 (滑り摩擦, 摩耗の試験パラメーター) は, 定期見直しの結果, 修正なしで確認した。

3. 耐衝撃性 (WG 3)

定期見直しの結果, ISO 179-2 (シャルピー衝撃強さの求め方) は改訂を進めることとなり, ISO 8256 (引張衝撃強さの求め方) は修正なしで確認した。

4. 温度依存特性 (WG 5)

ISO 75-3 (荷重たわみ温度の求め方 第3部) は, 定期見直し及び協議の結果, 修正なしで確認した。

ISO 75-2 (荷重たわみ温度の求め方 第2部) のポリプロピレンへの適用, 及びISO 75-1 (荷重たわみ温度の求め方 第1部) での温度プローブ設定に関し, 取進め内容とスケジュールを確認した。

ISO 6721-11 (DMAによるTg) は追補または改訂の内容, スケジュールに関して討議した。

5. 疲労及び破壊靱性 (WG 7)

ISO/DIS 17281 (高負荷速度での破壊じん性の求め方) 及びISO/DIS 13856 (破壊じん性の求め方 線形破壊力学アプローチ) は, IS発行のためにISO中央事務局(CS)に送付した文書をCSにて再チェックする。

ISO/PWI 28660 (J-R曲線の求め方) 及びISO/PWI 20979 & PWI 20331 (PEの平面応力衝撃条件の下での破壊靱性の求め方) は, 前回NP投票ではエキスパート国不足で否決されたが, 今回5か国が参加を表明したため, 再度NP投票を実施する。

ISO/DIS 18485 (柔軟包装用ラミネートの層間破壊じん性の求め方のための剥離試験) は, 投票の結果成立したが, コメント内容討議の結果, 大幅な変更が必要なため, FDISではなく, DIS2で取り進める。

ISO/NP 21705 (平面応力下の破壊靱性の求め方) は, エキスパート国不足により, 否決された。

また, 高麗大学(韓国)のB.H.Choi教授から, 各種試験片のクラック成長に関するプレゼンテーションが実施された。

(以上)